

「12組 同推協の活動」

第12組 同朋の会推進員 神谷 良男

12組同推協は東農地域9ヶ寺で構成されています。そして9ヶ寺、すべてで推進員が誕生しています。活動していくなかでよく、

「推進員って何するの？」

という問いがあります。蓮如聖人のお言葉『御文』の中に

「今生のみにふけて ～略～ これつねの人のならい」

「今生のみにふけりて」という生き方は、世の人のならいとこの様に言われる。私たちは推進員です。俗にいう、体は健康そのもの、金はある、うまいものはたらふく食った、何か文句あるか、ルンルン気分で生きていく生き方ではなく、真宗本廟の宗祖の御真影の前で宣誓文を読を読み上げ念仏者たらんとした思いに立ち帰り、お寺の行事には必ずお参りし仲間と共に聞法、談合する、このこと一つにわが身を立たせることを確認することを、推進員活動において確かめながら活動しています。

12組の活動として教区事業、春秋の別院の清掃奉仕、役員の年2回の剪定奉仕、報恩講等には遠距離にもかかわらず、すべての行事に参加しています。また同時に住職、寺族の方も一緒に参加してくれています。その協力姿勢は、活動の力になっています。遠距離のため、参加者全員に交通費助成も出しています。正副会長は、12組の教化委員会のメンバーになっており、お互い協力しながら教化委員会の事業、同推協の事業も同時に検討して決めています。1月18日、第2回教化委員会では、教区同推協の事業案内は各寺会長のみ連絡して

いました。推進員のみ活動という意識があった為、各お寺さんには個別には案内していなかったため、正式な日時はわからない状態でした。そのため、住職、寺族の方より、発言があり活動内容、日時を知りたいから事業の案内文書をお寺にも送付して欲しいとの発言があり、お互いに協力するといいながら連絡がとれていなかったことを反省する、教化委員会になりました。

7月に開催する同推協の総会があります。組長を招き『正信偈』の導師を勤めていただきます。午前中は講義報告、午後より法話となり終了次第解散となります。法話の講師は今まで、役員会で計って決めていましたが、いつも遠くの講師にお願いしていました。そんな中で、随分前ですが教務所での何かの集まりの中で門徒より、うちの住職は法話をしない、あまり上手でない、どうしたらいいかという質問が出ました。その回答のなかで、住職も門徒さんの前で法話することは不安である、緊張もある。だから門徒さんに応援して欲しい。無理にでも誉めて欲しい。

「今日の法話よかったよ。」

「この一言を入れれば、もっとよかったよ。」

と、門徒さんからみんなに応援し住職を育てて欲しいとの旨で、この言葉がずっと頭の中にありました。

総会の法話の講師を誰にするかというときに、二年前に思い切って変更しました。総会の会処は順序が決まっています。会処の住職に法話をお願いしています。今年度は浄念寺です。

今年度は12組で、新しく37名の推進員が誕生します。共に活動できるこ

とを心より願っています。